

ピンク地底人3号演劇年表(不完全版)

◎大学時代

○客演公演

●ピンク地底人公演

□ラジオドラマ脚本

2005. 04 ◎演劇集団Qに入団

大学生ノリをなんとなく敬遠していた(後の)3号であったが何かをしなければならぬという衝動に突き動かされ、新歓シーズンの演劇集団Qの出店がいい感じだったので、がんばって入団してみる。

3号「今思えば極端だったですね、演劇でもなんでもよかったんですけど」

2005. 06 ◎『班女』『弱法師』@同志社大学新町別館小ホール 作 三島由紀夫

(後の)3号が役者として初舞台をふむ。

3号「初舞台は楽しかったです、面白かったです。いやーなんか楽しかったですねー舞台はええもんやなと思いました。稽古も本番も楽しかった記憶があります。何が楽しかったか？うーん…なんか、セリフを言う事がやっぱねえ…もう忘れてしまった感情ですけど。ドキドキしましたね。人前でやるってことはやっぱりドキドキしましたね。あと、台本も面白かったんですよ。班女と弱法師を30分づつやったんですけど、ぼくは弱法師の方で。割と演出が変わってて。ぼくが女役で着物着て、むっちゃでかい女みたいな(笑)。この時、演技に関して色んな事覚えたんですけど、今思い返してみると、それって全部間違ってるんですよ。ぼくらが学生劇団やった時代って先輩劇団とか2世代上の人たちで、実は先輩とかがあんまり身近にいないんですよ」

2005. 10

◎『誤解』@同志社大学新町別館小ホール

作 カミュ

役者として参加。

2005. 12

◎『熱海殺人事件モンテカルロ・イリュージョン』

@同志社大学新町別館小ホール 作 つかこうへい

衣装として参加。

2006. 03

●ピンク地底人旗揚げ公演『あと十秒で』

@同志社大学クローバーホール

演劇集団 Q 在籍中の旗揚げ公演。ピンク地底人1号と2号がラーメンズのコントを披露した後に本編が始まるという謎の構成であった。ピンク地底人の公演では基本的に3号が作・演出をつとめる。

3号「懐かしいなあ…夢のような時間でしたね。演劇集団Qでは1回も演出してないんですけど、台本が僕たまたまできたんですよ。書いてみようかなと…うん。でもそんな気持ちも全て忘れてしまいましたね。どんどんその…きれいな思い出は消えていきますね…。なんか、今はそうでもないんですけど昔は音楽からつくってました。好きな曲とか影響を受けた曲とか、歌詞の隙間から物語を創っていきました(※1)、最終的には曲とは全然関係なくなるんですけど。この年表に載ってない本公演以外の小さい公演むちゃくちゃやってるんですけど…その時はあんまり曲から、みたいな事は無かったんですけど、本公演は曲からつくってましたね。なんか命がけみたいに心がなっていくんで、思い出がやっぱり(タイトルに使う曲には)あるから、がんばれますよね…でももう…どんだんがんばれなくなってるんですけど…なんかもう昔の思い出でしか何もできないですよ、やっぱりね。思春期のアレが全てですよ」

※1 地底人の本公演はこれまで大体何かの曲名からインスパイアされたタイトルがつけられている(12ページにタイトル元ネター一覧有り)。

2006. 04

◎『階段を半分降りたところ 小さなオデッセイウス』
@同志社大学新町別館小ホール 作 寺山修司

役者として参加。

2006. 06

◎『悪霊』作 松尾スズキ
@同志社大学新町別館小ホール 作 松尾スズキ

役者として参加。

2006. 08

◎『サブカルチャー西遊記』
@同志社大学新町別館小ホール 作 キャンディ江口

役者として参加。

※岩戸山のコックピットで客席・会場造形として参加してもらってる
竹内良亮の初舞台であったそう。

2006. 10

◎『禿の女歌手』
@同志社大学新町別館小ホール 作 イヨネスコ

音響効果として参加。

2007. 03

◎『曾根崎心中』
@同志社大学新町別館小ホール 作 近松門左衛門

音響として参加。

2007. 03

●第2回公演逆襲のピンク地底人『lolita kills me』
@人間座スタジオ

演劇集団 Q の古巣を飛び出し、初の学外公演となった第2回公演。
楽しいだけの演劇ではなくなって、嫌になってくる。

3号「嫌になってきたのは……………うまくできないとか。自分が思
ったようにうまくできないとか」

2007. 08 ◎『熱海殺人事件 平壤から来た女刑事・金正日暗殺せよ！』@同志社大学新町別館小ホール
作 つかこうへい

衣装として参加。

2008. 01 ●第3回公演ピンク地底人1x2x3=6
『SALLY SINAMON』
@東山青少年活動センター

初の、ピンク地底人単体での公演となる。

2008. 02 ◎『壊れた風景』@同志社大学新町別館小ホール
作 別役実

役者として参加。

3号「大学生の時の演劇は楽しかったですねー。友だちができたりして。みんなとやるのが楽しかったですね、仕込とか。でも舞台設置とか客席づくりとかは嫌いでしたね。学生なんであんまりよくわかってないから、アホほど時間かけるんですけど、仕上がりが汚かったりとか。なんでこんなに時間かけなアカンねんって言ってましたね(楽しそうな表情で)。まあ、みんなと一緒にいれるのは良かったんですけど」

2008. 05 ○マレピトの会『血の婚礼』@アトリエ劇研
テキスト ガルシア・ロルカ 演出 松田正隆

役者として出演。ずいぶんと刺激を受ける。

3号「難しかったです。棒読みで良いよと言われて…でもそれだけじゃ駄目で」

2008. 08

●第4回公演ピンク地底人『サイケデリック妊婦症』
@人間座スタジオ

劇団内の人間関係やらなんやらで悩むようになる。
ピンク地底人のホームページでは「良くも悪くも呪いみたいな公演だった」と振り返っている。

3号「思い出したくなさそうに)やっぱり人それぞれなんで
難しいですよね」

2008. 12

○演劇計画2008『小説家 妻甫(クボ)氏と京城の人々』@芸術センター
テキスト=ソン・ギウン、演出=筒井潤

リーディング公演に参加。役者として出演。刺激的な現場であった。

3号「演出の筒井さんにだいぶ影響をうけました。それまではなんか
割りと演劇ってこうじゃなきゃだめなんだというか、先入観みたいな
ものがあつたんですけど。ああ、こんなに自由な感じなんやと思
って。別にセリフをやりとりせんでもいいやん、みたいな。当
時はちゃんとセリフを書いてやらなきゃいけないだと思ってたん
ですけど、そうじゃなくても良いのかなと思った」

2009. 10

●ピンク地底人饒舌の第5回公演『EX. 人間』
@ロクソドンタブラック

3号「第4回公演とか5回公演の時とか本当もう辞める気でしたから
ね。…このぐらいに就職してたんです、ぼく。やめるつもりや
ったから。でも前回の公演が終わった後2号が『またやろう』

って言い出して、それでやってみたらこれが思いのほかうまくいったんですよ。面白いと思えたんです。それで気持ち良くなってまた続くんですけど…でも今は(2013年)またちょっと嫌になってきた感じですね」

2010. 02 **○マレピトの会『血の婚礼』@NHK シアターコレクション
再演(東京) 演出・松田正隆**

NHKの舞台中継の番組であった。

3号「NHK出て、テレビの画面に自分の名前(ピンク地底人3号)が映った時はビックリしました。…もし本名やったら怖いですね、僕は。なんかそれがずっと…残っていくというか。デビット・ポウイが時代ごとに変えていくんですよ、キャラクターを。それがかっこいいなと思って。後ろに引きずられないっていいですよ。自己防衛本能ですよ。これであかんって言われたらそのイメージがついちゃうから、それを回避するために別のアレになれるとか、そんな気持ちがありましたねー。話してて思い出してきました」

2010. 07 **●ピンク地底人落涙の第6回公演
『FLOWER OF ROMANCE』@アトリエ劇研**

英語のタイトルって格好つけてると思ひ始め、これからは日本語やなと思うようになる。思春期が終わりを迎えた時代。

3号「マレピトの会のNHKシアターコレクションぐらいの時には仕事やめてたから、仕事やめて1発目の公演です」

2010. 09

サンプル『自慢の息子』@精華小劇場を観て衝撃を受ける。

2010. 10

□『おやすみ まり子』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

初めてラジオドラマで脚本を書く。

3号「すごいまり子にこだわってた時期がありましたね、好きな名前なんです」

2010. 12

●『ピンク地底人謀略の第7回公演『その指で』
@東山青少年活動センター創造活動室

3号「お客さんの反応は良くなかったですけど、自分的には良かったです。美しい思い出ですね」

2011. 4

□『留守番まり子』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

ラジオドラマのレギュラー執筆者になる。

3号「ラジオドラマの台本はピンク地底人の時とは完全に別回路ですね。本公演はタイトルから先につけますけど、ラジオドラマの時はタイトルは後付けです」

2011. 5

□『ぐるぐるまり子』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2011. 7

□『りんりんまり子』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2011. 07

●ピンク地底人空前の第8回公演『ある光』

@シアトリカル應典院

台本が書けなくなってくる。

3号「書く事がなくて…でもまだ楽しかったです、この頃は…」

2011. 08

□『雨の日まり子』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2011. 08

■極東退屈道場「サブウェイ」@アイホールを観る。

2011. 08

『なんちゃら3. 0』というユーストリーム番組で劇団の大切さを語る。

3号「いや、人が好きとかそんなんじゃなくて、ほく…情が厚いんですよね」

2011. 09

□『カイカイまり子』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2011. 10

□『泣き虫まり子』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2011. 11

□『ハードボイルドまり子』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2011. 12

●ピンク地底人空前の第9回公演『マリコのために』

@東山青少年活動センター

原作／ガルシア・ロルカ「イエルマ」

この作品からまり子3部作が始まる。

3号「まり子っていう名前の人物が出てくる、似たテーマの作品ですね、まり子3部作っていうのは」

2011. 12

□『少し変わった兄妹の少し変わった一日の始まり』

ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2011. 12

□『幸せな冷蔵庫』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 02

□『冬の日の地底人兄弟』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 03

□『地底人兄弟の宿題』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 04

□『因果応報』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 04

●ピンク地底人番外公演『君がいなくても』

@アトリエ劇研

まり子3部作の1つ。

2012. 05

□『手を洗う』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 06

□『私とタヌキ』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 06

●ピンク地底人暴虐の第10回公演

『明日を落としても』

[大阪公演]@インディペンデントシアター2nd

2012. 07

□『コオロギと少女』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 08

□『マネキンの気持ち』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 08

●ピンク地底人暴虐の第10回公演

『明日を落としても』[東京公演]@王子小劇場

まり子3部作完結。第9回公演で用いた「マリコシステム」(役者が町のひとびとのアンサンブル、効果音ですべてを物語る)を更に洗練させた。東京公演は佐藤佐吉演劇祭招聘作品である。

3号「これも良かったです。良い公演ばかりなんですよ、ずっと。5回公演から3年ぐらいずっと楽しかったですね」

2012. 10

□『月に照らされる』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 10

●ピンク地底人回顧の番外公演『君がいなくても』

@KAIKA

2012年4月に上演した作品の再演。

2012. 11

□『両足の気持ち』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 12

□『心に花束を』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 12

□『タロや』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2012. 12

○イッパイアンテナジャック

『バードウォッチングダイアリーズ』

テキスト・演出 クールキャッツ高杉

@スペース・イサン東福寺

役者として出演。やはり影響を受ける。

3号「客演するたびに影響を受けますね。この公演では…演劇って楽しいなというか。すごく楽しかったです。ずっとはしゃいでました。でも俳優はもう絶対やらないです。楽しいんですけどね…素人が手を出しちゃいけないんですよ。俳優が出来たら楽しそうですけど」

2013. 01

□『君の料理、僕の左手』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2013. 03

□『ほろにが・マシマロ』 ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2013. 03

●ピンク地底人策略と陰謀の第11回公演

『散歩する侵略者』@アトリエ劇研

作:前川知大、演出:ピンク地底人3号

初の既成脚本、そして初の公募オーディションでのキャスティング。初めてつくしだったが、既成の脚本に3号の演出を載せ、物語としてどう

見せるのか、どう見せていくべきなのか、今後の公演の指針になった公演であった。

3号「台本の魅力を引き出すのが演出の仕事の1つかもしれませんね。自分で台本書くともうその台本の事知ってるから…大変なんですよ。その台本の事知らん方が面白いと思いますね」

2013. 04

□『ぐずぐずまり子』ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2013. 05

□『バナナと皮』ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2013. 05

●ピンク地底人大噴火の第12回公演
『ココロに花を』[福岡公演]@西鉄ホール

2013. 05

ピンク地底人大噴火の第12回公演
『ココロに花を』[東京公演]@王子小劇場

3号「演劇から影響はうけたくないです…真似したとかパクリとか言う人が出てくるんですよ、似たような事偶然同時期にやり始めてたりしたら。だったら俺そんなん絶対観てないと自信を持って言いたいというか。同世代の影響は受けたくないんです。音楽と映画はもう自分より前の物やから(影響受けても)良いんです。今の物は聞いていないですね。僕は思い出の中で生きてるんで。同志社大学卒業ぐらいから、80年代、90年代のものしか聞いてないです」

2013. 06

□『願う階段』ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2013. 07

□『犬だったら飼ってもいい』ラヴィーナ&メゾン STORY FOR TWO

2013. 08

3号演劇年表を元に色々話し合った最後に。

3号「あの…ファックさんは、毎日元気良くやっていますか、苦しくないですか？」

ピンク地底人本公演タイトル元ネタリスト

- 01回公演『あと10秒で』
ART-SCHOOL「あと10秒で」
- 02回公演『lolita kills me』
ART-SCHOOL「lolita kills me」
- 03回公演『SALLY SINAMON』
The Stone Roses「Sally cinnamon」
- 04回公演『サイケデリック妊婦症』
Syrup 16g「サイケデリック後遺症」
- 05回公演『EX. 人間』
Syrup 16g「ex.人間」
- 06回公演『FLOWER OF ROMANCE』
Public Image Ltd「Flowers Of Romance」
- 07回公演『その指で』
ART-SCHOOL「その指で」
- 08回公演『ある光』
小沢健二「ある光」
- 09回公演『マリコのために』
ART-SCHOOL「ニーナのために」
- 10回公演『明日を落としても』
Syrup 16g「明日を落としても」
- 11回公演『散歩する侵略者』
※既成脚本の為元ネタ無し
- 12回公演『ココロに花を』
エレファントカシマシ「OH YEAH! (ココロに花を)」